

【概要版】会議報告書

会議名	令和5年度矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会
日時	令和5年9月14日（木）（15時00分から17時07分）
場所	第一委員会室
出席者	矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員
<p>（欠席者）1名</p> <p>1. 開 会（15：00）</p> <p>2. 挨拶</p> <p>3. 議 事</p> <p>（1）デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ・地方創生推進タイプ）に係るK P I の令和4年度実績値の報告について</p> <p>（2）矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P I の令和4年度実績値の報告について</p> <p>○事務局から（1）デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ・地方創生推進タイプ）に係るK P I の令和4年度実績値の報告について及び（2）矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P I の令和4年度実績値の報告について、資料に基づき説明を行った。</p> <p>【質疑・意見等】</p> <p>○委員から出た主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数日前に下野新聞に県内市町の人口動態、社会動態の数字の記事では、プラスになっているのは、小山市、那須塩原市、下野市、さくら市、那須町、芳賀町、栃木市、真岡市、若干の減少が市貝町。矢板は、118人減っている。減る率が高いのは、塩谷町、矢板市、益子町、上三川町、那須烏山市、日光市、大田原市となっていた。 ・行政区も高齢化が進んでいる。きらきらサロンの運営も行政区がしている。 ・育成会も機能していない。保護者が仕事が忙しく、生活に追われて、育成会まで手が回らず、行政区でラジオ体操などいろいろな育成会の行事までやっている。 ・育成会も行政区も、今の行政区単位でいいのか。その辺まで考える時期に来ているのではないか。 ・ハローワークにおいては、求人そのものはそれほど減っていない。コロナ禍後、求人が増えてきているが、就職応募がする人が少ない状況である。 ・最近新しい工場の求人は正社員で給与が若干高いため応募者がたくさんいたという事例がある。 ・矢板市民の合計2割ぐらいは宇都宮ハローワークと大田原ハローワークで仕事を探している。 ・流山市は自市の強み弱みを徹底して分析し、「母親になるなら流山、起業するなら流山、農業するなら流山」のように分野別に具体的に住んでみたいと思われるような目標を設定して着実に20年間進めてきた。 ・矢板に来て仕事をして、起業して、どれだけ稼げるか。こうしたところをもっと頑張っていたきたい。 ・逆に、矢板から離れられない人達もいる。人口の多い少ないに順番を付ける必要はない。行政サービスが著しく低下していないのであれば、人口がある程度減っても仕方がない。 ・覚悟が決まっている人が残っていれば、ある程度その人たちが頑張る。矢板の場合は覚悟が決まっている人が多いと思う。 ・人口減少に関して、考えても答えの出ないものを必死にやる必要はないのではないか。何年後か何十年後かわからないが、大きな壁が来る。そのときそれをどのように乗り切るか。 	

- 行政区自体も成り立っていない。各行政区の中でも抜きたい人が多い。行政区の仕組み、やっていること自体に問題がある。
- 育成会でも同様に、仕組そのものに問題がある。育成会という言葉にこだわらず、年に1、2回子供たちのために何かやるということでもよい。
- 人口については、税収の問題である。市税は年45億円。3年前、自由に使える自主財源としての金額が県内で1番最低であった。
- 道の駅の利用者数は右肩上がり。指定管理料を出していたのが、今は、賃料と分配金が入る。かなりV字回復していて、これについては全く言うことがない。
- スポーツツーリズムによる経済波及効果が令和4年度に約13億5,000万円に回復してきた。ただ、去年、スポーツ合宿を誘致するというので、城の湯を廃止・売却するのではなく、スポーツ合宿を誘致すると市で決定した。
- スポーツ合宿誘致については、他の市でも同じくやっていて、争奪戦になる。例えば大田原市ではスポーツ合宿のパフレットを作って盛んに合宿誘致活動をやっている。どれだけ有利な条件が揃えられるのか。城の湯を現在改修しているが、50人の宿泊施設で部屋が狭い。本当にスポーツ合宿を誘致できるのか。
- 矢板市観光協会は法人化し、スポーツツーリズムも含めて担当するようになっていく。観光協会のメンバーでも、まことの湯や58ロハスクラブ、まだ形にはなっていないが旧長井小学校においても、やる人たちが出てきている。
- とちぎフットボールセンターは、県内に二つしかなく、県内外から相当利用されている。そのため大田原市や那須塩原市といったところよりも、スポーツ交流人口の可能性が矢板にはいっぱいある。
- 城の湯の宿泊施設の他民間の宿泊施設と市全体として取り組めば合宿誘致においては、有利になる。
- 山の駅については、利用者数はかなり伸びているが、売上が少ない。買いたい物がなく、食べたい物もない。工夫して開発すればかなり売れる。
- 私が気になるのは、検証シート No. 10 の就職支援による市内企業就職者数の数字で、非常に少ない。高校生を対象とした市内企業見学バスツアーは1回だけの実施ではあまり効果がないのではないか。
- 学校には求人を出しているが、どこの市内の会社も人手不足の上、人が入ってこない。企業ももちろんそうであるが、市でも対策が必要。
- 創業塾については、昨年度は27人。しかし実際にそこから起業するという人は少ない。現状では1～2人が起業できるかどうか。創業塾は経営の勉強や帳簿の付け方から学べるので勉強の場としても良い。
- 企業誘致は、いかに矢板市民に魅力的に映る会社かどうか重要。
- ハローワークでも、会社の魅力を発信するツールの一つとしてSNSを現在整備中である。
- 取引先からは人手不足の話が必ず出てくる。金融機関として何かできるか考えたい。矢板市の中で、人と仕事が全て循環できるような形になっていくと良い。
- 矢板市では、来年度から全ての学校がコミュニティスクールに移行する。すでに矢板小学校と泉小学校は移行しているが、地域の方に学校運営に携わってもらい、地域の方も学校もWin-Winな関係になることがコミュニティスクールの目的の一つ。
- 大学も矢板にあると非常に理想的と思う。幼小中高大と全て矢板にできれば若者が市にいて、町も非常に活気づく。
- 今の小中学生の将来なりたい職業は、男の子は、YouTuberやITエンジニア、ゲームクリエイター。女の子は、絵を描く仕事やYouTuber、歌手・俳優、ゲーム関係。

- ・矢板にある職業では、女の子でようやく6位に美容師、8位・9位に教師・保育士が出てくる。
- ・今の若者が希望する就職先と矢板市内の就職先が乖離している。
- ・人口問題については、日本全体が50万人毎年減るので、矢板市で人口が増えるわけがない。その中で少しでも減少を食い止めたいということ。
- ・農家が空き家になる時代である。
- ・八方の自転車レースやその練習合宿をとおして八方のPR。サッカーの町のPRも。
- ・国もAI技術を駆使した農機具の購入補助を出している。市も補助金を考えてもらいたい。
- ・道の駅近辺で農業体験や農地を借りて、おいしい野菜や米を作る体験ができれば、矢板のPRになる。
- ・道の駅の生産物は野菜は2日間置くと返品になるので、子供食堂への提供などできればと思う。
- ・病院では、治療以外にも予防や健康を維持するための活動として、市民健康講座を当病院の医師が無料で開催した。非常に関心が高く、2日ぐらいで定員になった。健康に対する認識・アンテナが非常に高い。
- ・道の駅が驚異的な伸びを示している。わかりやすいレイアウトなど、様々な工夫がある。農家も商品を充実させている。
- ・このような細かい積み重ねによって、かなり広範囲から客を呼び込めて、ここまで伸びてきている。
- ・民間では58ロハスクラブのマルシェがある。ドッグレジャーに目をつけて広範囲から誘客し、大人気である。
- ・こういった成功例を見ると、人が何に魅力を感じているのかという視点をしっかり捉えている。
- ・現状を把握した上でどういうPRをして、矢板市の魅力を正確に伝え、誘客を図っていく策が必要。
- ・本当に魅力的だと思えば、メディア側から取材にくる。
- ・道の駅や山の駅、スポーツツーリズムで人が来ているので、一過性の観光客交流人口にとどまらず、矢板のファンになってもらえば、移住定住につながる。
- ・人口減少は日本全国で課題。特効薬はない。減少カーブを緩やかにするため交流・関係人口から移住定住につなげていくことが、長い目では効いてくる。
- ・どこの市町も頑張っているが、立地の問題等で有利不利がある。
- ・矢板市のふるさと支援センターについては、市役所の外に移住定住の施設を設けて専任の職員を配置し、移住定住の相談を受けているところはあまりない。外から来た人に手取り足取り説明をしていけば、ファン作りにつながり、長い目では移住定住につながる。
- ・矢板市は構造改革をしている。例えば、城の湯は宿泊施設へと改革、道の駅も指定管理料を払う側から利益が入ってくる形に変わった。市の基金もかなり増えている。
- ・少ない税収・人口の中で構造改革し、無駄な経費をカットし、それを定住促進や関連施策に向けようという気構えが見える。
- ・特に、公団混乱地域だった矢板駅西地区の地籍調査が完了に近づいていることは、全国初のこと。3年4年ぐらいで進めてきたことは相当頑張ってきた。
- ・地方創生の効果がなぜ出てこないかという点、どこの市町も同じようなことをやっているから。その中で、結果を出そうとするのは難しい。
- ・広域的な視点から地方創生、デジタル田園を考えられないのか。矢板市だけで考えるのではなく、近隣市町とうまくリンクしながら、矢板にない魅力が隣にあれば、そことうまくリンクしながら新しい魅力を作っていく発想が必要。
- ・スポーツツーリズムの推進については、例えば、長野県上田市には菅平がある。そこはスポーツ合宿の聖地としてブランドがある。小ぶりのスポーツ合宿の聖地として矢板というブランド力を高めるのも一つの方策。

- ・就職支援については、バス見学から踏み込んでみては。石巻市では、NPO法人が実施している高校生が市内の中小零細企業をリサーチし、高校生バージョンの職業冊子を作っている。
- ・一方的に高校生を連れて行くのではなく、高校生から見て矢板市内の企業の魅力は何かを高校生自身が見つけて、発信できればと思う。
- ・人口減少については、止めるのは難しい。定住補助金申請を実施しているが、住まいと職は一体で考えないといけない。
- ・住宅政策を戦略的に行う必要あり。直接的な住宅政策である新しい公営住宅の在り方を考えることや、間接的な住宅政策である家賃補助など。矢板市独自の住宅政策モデルを考えてほしい。
- ・徳島県神山町は過疎地で、矢板市とは条件が違うが、しっかりと仕事を持っている子育て世帯に空き家を紹介している。
- ・最後に、矢板市のサイズ感がすごく良い。理由は、委員から白石さんなどの個人名が出てても皆その方を知っていることである。宇都宮では、個人名が出てきてもわからない。
- ・これは、本当に矢板市の強みであり、若いキーパーソンなどを応援できる体制が、行政も含めて、作りやすい。これを土台として、大切にしてもらいたい。

(3) その他

特になし。

4. その他

特になし。

5. 閉会 (17:07)